

【実践報告】

教育実習Ⅱ（幼）の報告

広島文教女子大学人間科学部

初等教育学科 准教授 田中 崇教 准教授 上村 加奈

1 はじめに

幼稚園教諭一種免許状の取得を希望する学生（初等教育学科幼児教育コース3年次生47名）を対象とした「教育実習Ⅱ（以下、本科目と略記）」（3年次前期開講）は、指定された幼稚園で実習を行い、幼稚園教諭に必要な実践力の涵養を目的とする。広島文教女子大学人間科学部初等教育学科「教育実習記録」は、教育実習の意義を次の5点に集約する。

①教育の理論と実践の一体化、②基本的教育技術の習得、③発達期にある幼児の理解、④教育的人間関係における相互作用についての学修、⑤教育者としての自覚高揚

2 実施のスケジュール

（1）事前・事後学修

- 第1回 平成28年11月25日（水）16:30-18:00
実習に関する基本理解、実習園の確認、課題の確認 他
- 第2回 平成28年1月25日（水）14:05-15:35
実習に関する基礎理解、実習に関する情報交換、課題提出 他
- 第3回 平成29年4月13日（木）15:50-16:20
課題の確認、実習および事前訪問に向けた確認作業（実習費等事務手続きを含む） 他
- 第4回 平成29年4月27日（木）16:30-18:00（各園にて実施）
実習園事前訪問の実施、園課題の確認 他
- 第5回 平成29年5月18日（木）15:50-16:20
実習に関する最終確認、事後課題の確認 他
- 第6回 平成29年7月6日（木）15:50-16:20
課題提出、事後報告会にむけた課題への取り組み（グループ・ワーク） 他
- 第7回 平成29年7月13日（木）15:50-16:20
報告会に向けた最終打ち合わせ（グループ・ワーク） 他
- 第8回 平成29年7月27日（木）15:50-16:30
報告会
- 随 時 平成29年7月期
園評価開示・指導

（2）実習

- I 期 平成29年5月29日（月） - 6月9日（金） 10日間
- II 期 平成29年6月13日（月） - 6月23日（金） 10日間
- *実習の補充延長等なし

3 実施概要

平成28・9年にかけて行われた5回の事前学修では、教育実習の意義・目的、教育実習において求められる課題および必要事項（事務手続き等を含む）について説明した。とりわけ実習生としての基本的な姿勢については、学ぶ立場にある謙虚な姿勢を取ることに加え、信用失墜行為の禁止および守秘義務を中心に指導を行った。また、実習園事前訪問から実習開始にかけて実施すべき必要最低限の事項をチェックリストによって確認した。また、実習園事前訪問は4月27日に一斉に各園にて実施した。

実習期間中では、幼児教育コース教員による訪問指導が数回行われ、各学生の状況等について報告が寄せられた。昨年度と比較した際、何より欠席連絡が皆無であったこと、天候不良による実習延期などの措置がなかった。この時期、天候不良による寒暖差や本科目が初めての本実習であるがゆえの思わぬ疲労の蓄積により、従来では感染症への罹患が散見されていた。しかし、事前指導における関連教員からの注意喚起、何より学生らの自己管理により欠席による実習延期の措置が取られなかったことは記載しておく。

事後学修（実習の振り返り）では、各グループで報告会に向けた作業を行うと同時に、報告会運営役員を中心に報告会が予定通りに運営された。準備作業では、各グループの討議活動が活発化されるよう、基本的検討課題の提示や話しやすい環境風土の構成に工夫を講じた。また学生による自主的な報告会運営を図った。準備段階から当日にかけて、運営役員を中心に責任感をもって積極的に活動する姿がみられた。以上のように、受講学生らから比較的熱心に最後まで取り組む姿勢が確認される。なお、報告会における8グループの各テーマは、次のとおりである。①「泣いている子どもへの援助方法」、②「してはいけないことをしてしまった子どもに対しての対応」、③「落ち着きのない子どもへのかかわり方」、④「活動する子どもへの声かけの援助」、⑤「活動に対し子どもが意欲的になる声かけ」、⑥「遊びの場面における保育者の対応」、⑦「食事場面での援助方法」、⑧「マイナス発言をする子どもの気持ち」

4 成果と課題

本科目では教育実習Ⅶ及び教育実習Ⅰおよび保育実習との連動性を意識し、必要な指導や情報提供を行うと同時に、その都度これまでの学修（関連資料）の確認を促した。例えば、園とのコンタクトや園内での立ち居振る舞いについて、設定保育（指導）案の立案上の骨子について等は、限られた指導時間内で詳細に分け入ることが難しい。それゆえに、実習関連科目との連動性（共通理解）を図ることは、情報の混乱による学修阻害を避ける点で有意義である。もちろん、本科目としても、以降に実施の保育実習、教育実習Ⅲ、教職実践演習に連なる指導的役割を担っていく必要がある。

最後に、「実習事前/事後期における個々の学生の心身ケアの充実」、「実習記録記載内容の変更」、「事務手続きの簡素化」、「実習前における幼稚園/保育所等での保育補助ボランティアの実施とその自明化（風土形成）」、「園との円滑な連携」を課題としてあげ、次年度に向けた取り組みとしたい。